（第２号様式）

令和３年４月８日

県立三浦初声高等学校長

令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 30 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 19 日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力を充実し、確かな学力の定着を図る。 ②学科併置の特色を活かし、学びの楽しさを実感できる学習活動を展開する。	①共通目標「見通しを立て、振り返りをする学習活動の工夫」達成に向け、ICT 活用を定着させる。 ②学科併置の特色を明らかにし、それを活かした教育活動を展開する。	①基礎学力充実をめざした共通目標達成に向けて ICT を活用した学校共通の学びのスタイルを確立する。 ②学科併置の特色を活かしたｶﾘｷｭﾗﾑを完成させる。 ②食や地域に着目した授業の工夫や教育活動を実践する。	①基礎学力充実に向けて、教員・生徒共に ICT を活用した学びのスタイルを確立できたか。 ②学科併置の特色を活かしたｶﾘｷｭﾗﾑを完成できたか。 ②食や地域に着目した授業の工夫や教育活動が具体的に実践できたか。 ②入江圃場を有効に活用できたか。	①ｺﾛﾅ禍、ICT を全職員が活用し工夫を重ねている。 ②普通科と農業科の横断的ｶﾘｷｭﾗﾑを組込んだ新ｶﾘｷｭﾗﾑを作成した。 ②食育委員会の活動をはじめ入江圃場活用の基盤を形成しつつある。	①ICT 活用を継続・拡大させるための施策が必要。 ②限られた人的資源の下、普通科と農業科のより一層の横断的ｶﾘｷｭﾗﾑ構築が課題。 ②都市農業科が実践している食と地域に密着した教育活動と普通科の取組みとの連携の仕方が課題。	○ICT 活用はますます重要になると思うので、テーマを決めて体系的に取り組む必要がある。 ○全職員が ICT を利活用し工夫を重ねている点は素晴らしい。さらに最大限に活用できる環境整備を進めたい。 ○教員・生徒の努力の成果が見られていると思う。	①休校中、全教科やＨＲでｵﾝﾗｲﾝの取組ができた。学校再開後も、常時ｵﾝﾗｲﾝの活用を定着させることが課題。 ②学科併置の特色が反映した新ｶﾘｷｭﾗﾑ構築の土台ができた。 ②入江圃場で作物の収穫が確認できた。教育活動の場として具体的な活用方法を具体化することが課題。	①各ｸﾞﾙｰﾌﾟの協力による ICT 委員会を発足させ、学習活動や学校運営業務等のあらゆる場面で ICT 活用を前進させる。 ②細部の確認により新ｶﾘｷｭﾗﾑを完成させる。 ②Being や食育委員会活動等の場面で入江圃場の活用を展開していく。また、運用にあたり学科・教科・ｸﾞﾙｰﾌﾟ等の連携の在り方を工夫する。
2	生徒指導 ・支援	①基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図り、支援の視点を生かした生活指導に取り組む。 ②幅広い教育活動の機会を活用し、コミュニケーション能力及び自己有用感の育成を図る。	①指導と支援の一体化を進め、問題行動の未然防止に向けた指導・支援の在り方を構築する。 ②精選した教育活動により、コミュニケーション能力や自己有用感を育成する。	①教育相談体制の下、生徒理解・支援をめざす OJT の機会を充実させる。 ②ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄに基づいた学校行事等の精選をし、計画・立案をする。	①生徒理解のための具体的な研修等を開催できたか。 ①支援の視点で生徒の学習や生活に対応できたか。 ②学校行事等のｽｸﾗｯﾌﾟ＆ﾋﾞﾙﾄﾞを行い、ｱﾝｹｰﾄ等から生徒の充実感等を確認できたか。	①職員研修会(SSW)・生徒講演会(外部講師)を実施。 ①自己肯定感や人間関係に係るｱﾝｹｰﾄの実施と分析ができた。 ②感染防止と生徒の充実感を両立させた行事が実現できた。	①講演会・研修会等は計画的・継続的実施が必要。 ①ｱﾝｹｰﾄの結果分析、経年変化等を今後の指導に生かしたい。 ②ｺﾛﾅ禍・平常時の両方について、行事のさらなる充実を検討したい。	○生徒理解・支援のため、研修やｱﾝｹｰﾄを実施し、その成果を生かそうとしている。 ○一部の生徒の校外での悪いﾏﾅｰに驚く。地域を見守る目で取組みたい。 ○自己肯定感獲得の推移を確認したい。	①２年間に渡る問題行動未然防止研究指定の取組の中で、様々な知識や技術を生徒・教員が知ることができた。これらを日常生活に活かしていく方策が課題。 ②感染防止を踏まえながらも形態や視点等の工夫で、効果的な文化発表会や収穫祭を実現できた。	①改訂された生活指導方針やいじめ対応ﾏﾆｭｱﾙの活用等により、指導と支援の一体化をより一層進めていく。 ②実現できた新しい教育活動の工夫を、今年度に限定することなく、今後へも活かしていくよう工夫をする。
3	進路指導 ・支援	○地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成に向けて、生徒が自ら目標を設定し主体的に取り組むことができる進路指導の充実を図る。	○生徒一人ひとりの進路希望を実現するため、生徒が自ら取り組めるように３年間を見通したｷｬﾘｱ教育の体系化を図る。	・ｷｬﾘｱ教育の観点から、３年間を見通したｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの充実を図る。 ・生徒一人ひとりに対して丁寧な進路指導を行う。	・卒業生が各自の進路希望を実現できたか。 ・生徒は主体的にｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、依託実習等に取り組むことができたか。	・各年次にｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを充実できた。 ・進路担当職員による個に応じた指導体制を築くことができた。	・ｺﾛﾅ禍、小規模であったが、実施。 ・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟを実施できなかったが、「仕事の出前授業」を行い仕事について考えさせた。	○個に応じたきめ細やかな進路指導体制による成果を期待したい。 ○就職環境の変化に対応する情報収集の強化を期待する。	○〈普通科〉進学:110 名(6 割)/就職:39 名(2 割) 〈都市農業科〉進学:13 名(4 割)/就職:12 名(4 割)が進路決定した。 ○「私の進路計画」の冊子が完成できた。	○ｷｬﾘｱ教育の視点に立って、進学希望者のﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ等が学習活動全般を牽引できるよう、その指導の在り方を年次や教科で検討を重ねる。 ○「私の進路計画」の活用方法を検討する。
4	地域等との協働	①地域の特性を理解し、地域とのかかわりを持ち貢献することで、自己有用感・自己肯定感や社会性を育む。 ②地域の教育力を教育活動に活かす。	○ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、依託実習等に取り組む生徒の活動実績を支援し、より充実させていく。	①生徒の活動状況を可視化し、生徒間で共有できる工夫をする。 ②学校運営協議会等の協力で地域の特性や教育力等の情報収集をする。	・HP や ICT、校内掲示等を活用して、生徒の活動状況が発信できたか。 ・学校と地域とのﾈｯﾄﾜｰｸをより広く充実させたか。	①ｺﾛﾅ禍のため地域貢献活動を十分に実施できなかった。 ②学校運営協議会の協力で、学校説明会で産農人の PR ができた。	①ｺﾛﾅ禍、地域連携の情報発信ﾂｰﾙとして HP の更なる有効活用が必要。 ②新たな地域ﾈｯﾄﾜｰｸの構築を模索する必要もあるだろう。	○今後とも地域の学校として連携・協力していきたい。 ○地域等との協働・連携を図ろうとする取組があり、継続させてほしい。	①例年通りにできなかった農業科の直売は、新たな販路等を開拓し、地域との繋がりの巾を拡げることができた。 ②学校運営協議会では、分科会ごとに具体の意見聴取ができた。	①ICT 委員会を発足させることで本校 HP の更新が活発になり、地域への情報発信ﾂｰﾙの役割を一層充実させる。 ②活発で具体的な意見聴取に向けた会議の進行を工夫する。
5	学校管理 学校運営	①両ｷｬﾝﾊﾟｽの環境や連絡・防災体制を整備し、安心安全で信頼される学校づくりをする。 ②生徒にとって生き方のモデルとなるようなﾜｰｸﾗｲﾌﾊﾞﾗﾝｽを充実させる働き方を実現させる。	①両ｷｬﾝﾊﾟｽにおける避難体制をすべての生徒・職員に実感をもって浸透させる。 ②心身共に健康で風通し良く、同僚性が実現できる働き方をめざす。	①入江ｷｬﾝﾊﾟｽで両学科合同の避難訓練を実践する。 ①両ｷｬﾝﾊﾟｽの防災体制を学校全体で共有できる工夫をする。 ②業務が特定の職員に偏ることないよう互いの同僚性を発揮する。	①入江ｷｬﾝﾊﾟｽで両学科合同の避難訓練を実践できたか。 ①両ｷｬﾝﾊﾟｽの防災体制を学校全体で共有できる工夫ができたか。 ②残業時間を増やさず、年次休暇を計画的に取得できたか。	①避難経路確認、DIG の実施により、災害時の避難場所や避難方法を考えさせることができた。 ②ｺﾛﾅ禍、在宅勤務やｵﾝﾗｲﾝ会議等新しい働き方を取り入れる機会をもてた。	①両学科合同の避難訓練の実施ができず、避難経路確認となった。密にならない避難訓練の実施を来年度は計画する。 ②ｵﾝﾗｲﾝの活用で業務（会議・研修等）の効率化を一層進めたい。	○今後もｺﾛﾅ禍での防災や災害時対応について、さらなる検討が必要と考える。 ○新校発足３年が経ち、校内の雰囲気が年々良くなっている。	①災害時の食糧確保を一層充実させることができた。また、三浦市防災拠点に入江Ｃも加わり、その規約が整備できた。 ②職員の朝の打合せは両ｷｬﾝﾊﾟｽをｵﾝﾗｲﾝで同時開催が定着できた。	①入江ｷｬﾝﾊﾟｽにおいて、三密を回避した両学科合同の避難訓練は次年度必須である。 ②定期的な事故防止会議開催により、高い意識の維持に努める。 ②常に安全で衛生的な職場環境の維持のため、衛生委員会の効果的な活用を工夫する。